

平成28年度

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業

ファッション・デザイン分野

報告書

文化学園大学 和装文化研究所

平成29年3月31日

はじめに

文化学園大学和装文化研究所では、武蔵野美術大学美術館・図書館、京都工芸繊維大学工芸資料館とともに、平成27年からの2年間、文化庁委託事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」を進めてまいりました。

本事業は、日本国内のデザイン分野資料の所蔵機関を繋ぐネットワークを構築し、その資料に関する情報を収集・整理しデジタルアーカイブ化することによって、それら資料の利活用のための基盤を形成することを目的としています。

デザインを専門とするミュージアムが未だ存在しない日本において、デザインに関する貴重な資料は散逸や消失の危機にさらされ、また世界規模の文化振興への貢献が期待されるにもかかわらず、国内における所在情報の把握が難しく、活用が困難な状況にあります。このような状況に鑑み、本事業では、ファッションデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックデザインの3分野において、それぞれ所蔵施設間のネットワークを構築し、そこに集められた情報を集約して、国内のデザイン資料の横断的な利活用の促進と、デジタルアーカイブ化の普及啓発に取り組むこととなっております。

ファッションデザイン分野を担う文化学園大学和装文化研究所では、その保存や活用に関する一定の知識を有し、またいくつかの施設とのネットワーク構築が既になされている「和装」を、調査・研究の軸に据えることといたしました。

改めて確認するまでもなく、高度な技術をもって製作された和装資料は、着用という本来の目的の他に鑑賞対象としても根強い人気があり、国内の博物館・美術館における所蔵数も少なくありません。また、その伝統的な形状や意匠、織りや染めの技法は世界的にも高い評価を受けており、近代以降様々な地域で模倣され、応用されてきました。つまるところ和装は、我が国のファッションデザインを語る上で欠くべからざる構成要素であるとともに、今後国内外に向けて継続して発信されるべき、貴重なコンテンツであるといえます。

こうした和装資料を含むその他多くの服飾分野資料の横断的な利活用を促進するため、本事業ではまず所蔵施設を訪問し、資料管理の実務にあたる方々とのネットワーク構築を進めてまいりました。そして各施設のデータベース運営に関わる基礎的な調査も併せておこない、横断化に向けた課題の所在について検討をしてきました。またこれと同時に、これら専門施設の外にも貴重な資料が数多く存在する事実を重く受け止め、寺社を含む個人管理の資料（以下、「未発掘資料」という）にも目を向け、その所在確認と訪問調査、そして調査結果のデータ化をおこなってきました。

本報告書では、服飾資料のデータ化と、これらを蓄積したデータベースの横断化を目指したこれまでの調査・研究についてその概要を記し、得られた知見の一端をご報告したく思います。

目次

事業の概要.....	2
事業の報告.....	4
1. ネットワークの構築.....	4
服飾資料所蔵施設への訪問調査	
2. アーカイブ手法の検討等.....	9
所内会議	
有識者会議	
先進的取り組みの調査	
シンポジウムへの参加	
3. データベースの管理・運用、利活用.....	13
データベース利用者ヒアリング調査	
未発掘資料の調査	
4. 本年度事業の成果報告.....	15
シンポジウムの開催	
文化庁主催シンポジウムにおける報告	
5. 連携機関との連絡.....	20
連絡会議	
連携機関との打ち合せ	
おわりに.....	21
添付資料.....	22
I. 訪問調査 事前アンケート.....	22
II. Europeana(ヨーロッパアナ) 報告書・戦略書リスト.....	26
III. 成果報告(ファッション・デザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム) 使用パワーポイント画像.....	28
IV. シンポジウム告知用ポスター.....	33
V. 文化庁主催シンポジウム発表用ポスター.....	34

事業概要

本事業は、公募時の要領に沿って計画された以下の4つの内容から構成され、中核拠点の置かれた和装文化研究所内において月に2、3回程度おこなわれた会議（所員4名、近藤尚子、田中直人、金井光代、ジュリア ナシメントで構成。以下、「所内会議」という）にて検討をおこない、進めた。

1. ネットワークの構築

・服飾資料所蔵施設への訪問調査

服飾資料を所蔵する国内13施設を訪問し、当該施設とのネットワーク構築と館蔵品データベースの運営に関わる基礎調査をおこなった。訪問対象は資料の所蔵数、データベースの有無などを勘案しつつ、所内会議にて選定した。本事業に対する関心が示された施設については、引き続き連携が期待される「協力施設」として位置付け、継続的に情報交換をおこなうこととした。

・中核拠点主催シンポジウムへの参加呼び掛け

年度末におこなったシンポジウム（「ファッション・デザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム」平成29年1月21日開催）では、協力施設に対し参加を呼び掛けた。またシンポジウム終了後は、より密なる連携の構築を目指し、データベースの横断化に関して自由な意見交換をおこなうための懇話会もおこなった。

2. アーカイブ手法の検討等

・所内会議における検討と論点の整理

所内会議では、如何なる情報が如何なる形で必要となるか（アーカイブ手法）、各館のデジタルデータを如何にして横繋ぎするか（横断化手法）の2点を中心として、調査にて得られた情報をもとに検討を進めた。検討事項のすべてに対し明確な結論を求めることはせず、有識者会議での議論や、協力施設との情報交換の際の議題として提示するための論点整理をおこなった。

・有識者会議における検討

服飾資料、とりわけ和装資料に通暁し、学芸員としての勤務経験もある識者（長崎巖氏（共立女子大学）樋口一貴氏（十文字学園女子大学）澤田和人氏（国立歴史民俗博物館））を招き「有識者会議」を組織した。所内会議にて整理された課題をもとに、平成28年12月、文化学園大学にて会合を開いた。アーカイブ手法の検討とデータベースの横断化の進め方について検討し、今後の指針となる助言を得た。

・先進的取り組みの調査

資料データの蓄積や公開に関し先進的な取り組みを進める諸施設を訪問し調査をおこなった。服飾に限定せず、見るべき内容があれば他分野であっても連絡を取り、話を聞いた。

・シンポジウムへの参加

先進的取り組みを広く知るために、関連するシンポジウムに参加した。

3. データベースの管理・運用、利活用

- ・各館データベースの現況調査

訪問施設にて、服飾資料、とりわけ和装の管理のあり方とデータ化手法について調査した。また館蔵品データベースを持つ施設では運用・利活用の現状も調べた。施設ごとに異なる分類方法や登録名の整理がアーカイブ手法検討の参考となるため、適宜これを尋ねた。

- ・データベース利用者に対するヒアリング調査

データベースに必要な情報についておおまかな傾向を知ることを目的として、服飾分野の研究をおこなう大学院生に対してヒアリング調査をおこなった。

- ・未発掘資料の調査

博物館・美術館などの専門施設の管理外にある和装資料について、所在確認と基礎的な調査、および資料情報のデータ化作業を進めた。本年度は平成28年10月、12月、平成29年2月に東海地方において計2件の調査をおこなった。

4. 本年度事業の成果報告

- ・シンポジウムの開催

「ファッション・デザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム」（先掲）を開催した。事業内容を3パート（1. 服飾資料所蔵施設に対する訪問調査の結果報告、2. 横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告、3. 服飾分野における未発掘資料調査の結果報告）に分けて報告した。終了後、参加者との意見交換の場ももうけた。

- ・文化庁主催シンポジウムでの報告

文化庁主催の国際シンポジウム「日本の現代美術を考える - 未来へ、そしてレガシーへ」（平成29年1月14日開催）にて、本年度の事業に関するポスター発表をおこなった。

- ・報告書の作成

本年度事業の4つの内容について、調査・研究の概要を記し、得られた知見の一端を示すべく報告書を作成した。

事業の報告

1. ネットワークの構築

服飾資料所蔵施設への訪問調査

● 訪問施設

- 共立女子大学博物館準備室
(現：共立女子大学博物館)
調査日：平成28年6月22日(水)
所在地：東京都千代田区一ツ橋2-6-1
共立女子学園2号館B1F
- 高島屋史料館
調査日：平成28年9月27日(火)
所在地：大阪府大阪市浪速区日本橋3-5-25
- 女子美術大学美術館
調査日：平成28年7月27日(水)
所在地：神奈川県相模原市南区麻溝台1900
女子美術大学相模原キャンパス
- 奈良県立美術館
調査日：平成28年9月28日(水)
所在地：奈良県奈良市登大路町10-6
- 和洋女子大学文化資料館
調査日：平成28年7月30日(土)
所在地：千葉県市川市国府台2-3-1
- 京都文化博物館
調査日：平成28年9月29日(木)
所在地：京都府京都市中京区三条高倉
- 杉野学園衣裳博物館
調査日：平成28年8月4日(木)
所在地：東京都品川区上大崎4-6-19
- 千總ギャラリー
調査日：平成28年9月29日(木)
所在地：京都府京都市中京区三条通烏丸西入
御倉町80
- 徳川美術館
調査日：平成28年9月8日(木)
所在地：愛知県名古屋市東区徳川町1017
- 京都国立博物館
調査日：平成28年9月29日(木)
所在地：京都府京都市東山区茶屋町527
- J. フロントリテイリング史料館
調査日：平成28年9月8日(木)
所在地：愛知県名古屋市中区栄三丁目16番1号
松坂屋名古屋店内
- 国立歴史民俗博物館
調査日：平成28年12月8日(木)
所在地：千葉県佐倉市城内町 117
- 東京家政大学博物館
調査日：平成28年9月15日(木)
所在地：東京都板橋区加賀1-18-1

● 調査概要

服飾資料を所蔵する13施設に訪問調査をおこなった。調査方法は、事前アンケートを送付、そのアンケートを参考に、ヒアリング調査をおこなった。(アンケート調査票は添付資料 I を参照)

主な質問内容

1. 所蔵資料について

- ・所蔵数
- ・資料分類のあり方
- ・台帳作成手法

2. 自館のデータベースについて

- ・データベースの有無
- ・公開非公開の別
- ・運用開始時期
- ・運用体制(スタッフの人数、週の作業時間数など)
- ・構築目的
- ・想定利用者
- ・公開資料の選定基準
- ・画像の取り扱い(無断転載への対応、有償利用制度の有無など)
- ・問題点

3. 横断的アーカイブについて

- ・必要性
- ・有効な検索条件
- ・データ提供側の要望

● ヒアリング調査結果

・データベースの公開について

業務利用のための非公開データベースはほとんどの施設が持っているが、公開データベースを持っているのは、13施設中4施設のみで、その4施設の内3施設は公立博物館・美術館である。

しかし、多くの施設はデータベース公開に前向きな姿勢を示している。意欲はあるもののその構築に至っていない現状が明らかになった(図1参照)。

公開データベースに対する共通認識

多くの施設がデータベース公開に前向きな姿勢

- ・館蔵品を広く知ってもらいたい
- ・社会貢献
- ・時代の流れ

問題点

- ・慢性的な人員不足
- ・予算や助成金が確保できないと整備は難しい
- ・データベースの整備は緊急性がなく、後回しになりがち

図1. データベースに対する共通認識

・服飾資料所蔵施設の特性

服飾資料所蔵施設は、大きく分けて4つのグループ(①公立博物館・美術館、②私立博物館・美術館、③大学博物館・美術館、④企業(呉服屋系))に分類できる。これら4グループは成り立ちや性格を異にしており、①と②が、資料の保存・管理を目的として資料収集をおこなってきたのに対し、③と④は、実用のために所蔵した資料が、後から博物館・美術館に移管されたという経緯がある。そのため、③、④では、所蔵資料の調査・整理が追いつかず、このことが、データベースの公開に至らない大きな原因の一つとなっている。

・グループごとの特性と重視するポイント(表1参照)

データベース公開に対する考え方

①公立博物館・美術館は「所蔵品は国有・県有財産であるため情報公開は不可欠である」と回答しており、4つのグループの中で最も積極的にデータベース公開に取り組んでいる。

予算の確保について

④企業(呉服屋系)からは、「営利企業なので、助成金を得にくい」という回答を得た。他の3グループからは、「予算や助成金を得られれば公開データベース化が進む」という回答を得たが、助成金の獲得も容易ではないという意見もあった。

重視するポイントについて

①公立博物館・美術館からは、「サイバー攻撃の標的になりやすいのでセキュリティ面を重視している。クラウドでは心配である」という回答を得た。他の3グループからは、「低予算、低負担で出来るものが良い」との回答を得ており、各施設の特性により重視するポイントが異なることが明らかになった。

横断的デジタルアーカイブについて

4つ全てのグループから「あると良い」という回答を得た。しかし、懸念事項はグループにより異なる。①公立博物館・美術館からは「セキュリティが心配」、②私立博物館・美術館からは「データの提供は容易ではない」、③大学博物館・美術館、④企業(呉服屋系)からは、「自館の公開データベースが優先であるが、これが整備されればデータ提供も可能」という意見があった。横断的デジタルアーカイブ実現には、解決しなくてはならない課題が数多くあり容易ではないが、多くの服飾資料所蔵施設がその構築を前向きに捉えている事実を確認できた。

表1. グループ別の特性と重視するポイント

	データベース に対する考え方	予算	重視するポイント	画像の貸出	横断的アーカイブ について
1 公立 博物館・美術館	国有・県有財産であるため、情報公開には積極的	国や県主導でプロジェクトが始動し、予算がつけば大規模な公開DBが作れる	サイバー攻撃の標的になりやすいのでセキュリティ面を重視。クラウドでは心配	有償での貸出(商用目的以外であれば、申請を求めない場合もある)	あると良い 公開DBが繋がることに問題はないが、セキュリティ面が心配
2 私立 博物館・美術館	収益に直結しないため、必ずしも優先順位は高くない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものが良い	有償での貸出(重要な収入源)	あると良い ただ、データ提供には制約もある
3 大学 博物館・美術館	資料調査が不十分で公開に至らない	助成金を受けられれば公開DB化が進む	低予算、低負担でできるものが良い	無償での貸出(要申請)	あると良い ただ、自館DB未整備のため、現状では難しいが、整備されればデータ提供も可能
4 企業 (呉服屋系)	資料調査が不十分で公開に至らない 営業活動が優先	助成金を得にくい(営利企業であるため)	低予算、低負担でできるものが良い	無償での貸出(要申請)(一部例外あり)	あると良い ただ、自館DB未整備のため、現状では難しいが、整備されればデータ提供も可能

● 調査員が感じた問題点

・データベースに対して持っている概念の相違

調査を進める中で、公開データベースは2種に大別できることがわかった。ひとつは、一般来館者向けの名品紹介的なデータベースであり、博物館・美術館で公開されるデータベースは、このタイプが大半を占めている。もうひとつは、研究者向けのデータベースであり、所蔵品の大半を公開する網羅型のデータベースである。両者は利用者も利用目的も大きく異なるが、同じ「データベース」という言葉でひと括りにされており、このことが混乱を招く一因と考えられる。データベースや、それを発展させた横断的アーカイブを検討する上で、こうした2つの「データベース」が存在することをまずは理解し、利用者、利用目的を正しく見定めたデータベースを作ることが肝要である。

- ・資料の分類や名称に統一的な基準がないこと

服飾資料の分類や名称に統一的な基準は殆どないと言ってよい。調査では「服飾資料の分類や名称について議論がなされていない」という意見や、「他館のデータベースでは、目当ての資料を見つけられない、よって、他館のデータベースは殆ど使うことがない」という声が聞かれた。一方で分類や名称の不統一は、各博物館・美術館が個々に培ってきた文化でもあるため、変更、統一することは困難であるし、またすべきでもない。多様性を活かしたアーカイブ手法が求められる。

- ・システムや権利関係の専門家がスタッフにおらず、また相談する窓口もない

公開データベースや、横断的アーカイブの構築には、システムや権利関係の課題も数多く存在する。しかし知識を持ったスタッフがおらず、また相談する窓口もないため、インターネット公開に踏み出せないという意見があった。これは単館で解決できる問題ではないため、何らかの公的サポートが望まれる。

- ・データベース公開における施設側のメリット

公開データベースを急ぎ構築する必要性を施設側がそれほど感じていない現状も見えてきた。データベースを公開しても、来館者が目に見えて増加することも考えにくく、研究や業務に大いに役に立つわけでもないため、業務としての優先順位は高くない。慢性的な人員不足、予算不足が問題視されるなかで、公開データベース構築のために人員、予算を割く余裕がないというのが殆どの施設に共通する現状である。

● まとめと今後の課題

服飾分野においては、未だ自館の公開データベースが未整備な施設が多くある現状が把握できた。その一方で、自館の公開データベースの構築やその先にある横断的アーカイブに対して前向きに捉えている施設は少なからずあった。ただ、多くの施設は慢性的な人員不足、予算不足、そして、公開データベース構築のためのノウハウを持たないなどの問題を抱えている。これらは個々に解決を目指すよりも、服飾資料所蔵施設同士が連携して当たることが望ましい。本事業では、中核拠点として、施設間の連携のサポート役を担っていきたい。

2. アーカイブ手法の検討等

所内会議における検討

参加メンバー：近藤尚子、田中直人、金井光代、ジュリア ナシメント
(文化学園大学 和装文化研究所)

内容：

- ・ 訪問調査事前、事後打ち合わせ
- ・ アーカイブ手法、データベース横断化についての論点整理
- ・ ヨーロピアナ勉強会
- ・ 事務連絡他

開催日：	平成28年	平成29年
	6月9、16、30日	1月12、19、26日
	7月7、14、21、28日	2月2、16日
	8月4日	
	9月15、23日	
	10月6、20、27日	
	11月8、17日	
	12月1、15日	<u>全22回</u>

Europeana(ヨーロピアナ)勉強会

今日、世界中で、文化資源をデジタルデータ化し、インターネット上で公開するデジタルアーカイブが急速に発達している。中でも、複数の施設が所蔵する文化資源の横断検索を可能にしたEuropeanaは、その先進的な取組として世界から注目を浴びている。我々も、横断的デジタルアーカイブを検討する上で、Europeana研究は欠かせないと考え、所内で定期的に勉強会を開催してきた。

Europeanaについての概略

- ・ 欧州委員会の主導により2008年に開設、2015年時点では、欧州全域の美術館・博物館・図書館・文書館などをはじめとした2,300以上の文化施設が参加し、3,000万件以上の文化資源データが一括でアクセス可能なプラットフォームにまで成長している。
- ・ 文化施設が保有する情報の利活用促進を含むオープンデータ政策(CC0)を推進している。(CC0とは、著作権保護コンテンツの作者・所有者が、著作権による利益を放棄し、作品を完全にパブリック・ドメインに置くことを可能にするもの。CC0により利用者は、著作権による制限を受けずに、再利用することができるようになる。)
- ・ メタデータの集約やデジタル化支援などを担うアグリゲーターと呼ばれる中間組織をつくり、それを通じて段階的にデータを集約する構造を作っている。
- ・ 公式URL：<http://www.europeana.eu/portal/en>
(勉強会で用いた資料のURLは、添付資料Ⅱ参照)

有識者会議における検討

- ・ 第一回ファッション・デザイン分野有識者会議

会場：文化学園大学

日時：平成28年12月3日(土)

有識者：長崎巖(共立女子大学教授)

樋口一貴(十文字学園女子大学准教授)

澤田和人(国立歴史民俗博物館准教授)

出席者：近藤尚子(文化学園大学和装文化研究所)

田中直人(文化学園大学和装文化研究所)

金井光代(文化学園大学和装文化研究所)

今年度事業で行ってきた下記の調査結果を有識者に報告した。

- ・ 服飾資料所蔵施設への訪問調査
- ・ 未発掘資料の調査
- ・ ヨーロッパナ勉強会
- ・ 限定公開の横断的デジタルアーカイブ(案)

所内会議の論点整理に対し、有識者から下記のような助言を受け、本事業の方向性を確認することができた。

- ・ システムのネットワーク作りも大事だが、それ以上に人的ネットワーク作りが重要である。
- ・ 学芸員の負担は極力少なく、しかし利便性の高いものを作り上げるのが理想。
- ・ 参加博物館・美術館、学芸員のメリットを如何に提示できるかがポイントとなる。(限定公開の横断的デジタルアーカイブによって、認知度が低い資料を知ることができるのは、学芸員のメリットになる。)
- ・ 限定公開から始めて、明らかになった問題を解決しながら一般公開へという道筋は現実的で良い。

先進的取り組みの調査

- ・立命館大学アート・リサーチセンター

調査日： 平成28年9月27日(火)

所在地： 京都府京都市北区等寺院北町56-1

データベースの公開に先進的に取り組んでいる立命館大学アート・リサーチセンター(立命館大学ARC)を訪問した。数あるデータベースの中でも、代表的なデータベースである「ARC浮世絵ポータルデータベース」の事例を中心にヒアリング調査を行った。

- ・「ARC浮世絵ポータルデータベース」は、立命館大学ARCの所蔵作品を中心に、約50の機関・個人がweb公開する画像のURI(Uniform Resource Identifier)を管理する、機関横断型デジタルアーカイブである。
- ・他の博物館とリンクする際に項目を統一させることは難しい。それぞれの施設によって重視する項目が異なる。
- ・重視する基本情報は画像である。画像の質にはこだわりをもち、学術雑誌で出版できるクオリティのものを撮ることを基本としている。
- ・データには、公開データと非公開データがある。連携機関は自身の所蔵資料のデータを公開するか、非公開とするか選ぶことができる。
- ・研究利用を目的としたデータベースである。
- ・画像の使用ルールは、各所蔵機関の利用ガイドへのリンクを貼って、当該機関の規定に基づいて利用するように明記している。
- ・画像公開については、当初懸念もあったが、10年以上運用してきて、大きな問題は起きていない。
- ・データベース公開に対して、海外の機関は積極的だが、国内の機関は消極的な傾向がある。
- ・ARCのデータベースは、大英博物館との連携により大きく前進した。欧米の機関へのPRになった。
- ・ARCモデル(赤間亮教授提唱)は、研究者自身がデジタルアーカイブ化推進に参画するのが基本となっている。
- ・2014年からは、文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」としても活動している。
- ・ヒアリング調査後には、アート・リサーチセンター内を見学した。資料の修復、保存、撮影、デジタル化作業をすべてセンター内でできる設備と人員が整っており、データを保管するサーバも所有している。

シンポジウムへの参加

デジタルアーカイブに関するシンポジウムに参加し、デジタルアーカイブを先進的に進めている他分野の事例や、専門家の講演から多くを学んだ。

- ・第10回資料保存シンポジウム「未来に遺す情報保存 ―収集・保存・利活用―」
会場：一橋大学一橋講堂中会議場 学術総合センター2階
日時：平成28年10月3日(月)
- ・第18回図書館総合展フォーラム
第一部「我が国におけるデジタルアーカイブ連携の未来：国立国会図書館サーチとアグリゲーターの視点から」
第二部「我が国におけるデジタルアーカイブ連携の未来 ～ADEACの現状と今後の取組み～」
会場：パシフィコ横浜アネックスホール 第2会場
日時：平成28年11月10日(木)
- 慶應義塾大学DMC研究センターシンポジウム
第6回 デジタル知の文化的普及と深化に向けて「デジタル知が広げる文化財の可能性」
会場：慶應義塾大学日吉キャンパス西別館1
日時：平成28年11月22日(火)
- ・平成28年度文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」グラフィック分野国際シンポジウム
「グラフィックデザインアーカイブの現状と可能性」
会場：東京国立近代美術館講堂
日時：平成29年1月22日(日)
- ・NFCシンポジウム「映画におけるデジタル保存と活用のためのシンポジウム」
会場：東京国立近代美術館フィルムセンター
日時：平成29年1月27日(金)
- ・アンサー・シンポジウムJAL2016WS「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅲ」への応答 ―“またもや”感を越えて」
会場：東京国立近代美術館講堂
日時：平成29年2月3日(金)

3. データベースの管理・運用、利活用

データベース利用者ヒアリング調査

- ・ 共立女子大学大学院

調査日：平成28年7月1日(金)

所在地：東京都千代田区一ツ橋2-2-1

対象者：大学院生5名

利用者の声を聞くために大学院生に服飾資料のデータベースについてヒアリング調査をおこなった。

- ・ 博物館・美術館のデータベースを研究目的で使ったことはほとんどない
 - 理由→ 検索しても希望する資料が出てこないことが多い
 - 所蔵資料が網羅されていない
 - 掲載されている資料の選定基準が明示されていない
 - 検索方法に統一性がなく利用しにくい
 - 画像が不鮮明
 - 知りたい情報が掲載されていない
 - 多くのデータベースは研究利用を想定しておらず、名品紹介的なものである
- ・ 海外の博物館・美術館のデータベースは利用している
 - 理由→ 海外資料の情報を日本で入手するにはインターネットが最も便利である
 - 博物館によって、画質や掲載数に差がある
- ・ 書籍、新聞、論文のデータベースはよく利用している
 - 理由→ 書籍はデジタル化されている数も多いため、目当ての資料がみつけやすい
 - タイトルや著者、発行年など確定的な項目が多く、検索しやすい
 - 第三者の解説などがなく、一次資料として利用しやすい
- ・ 研究利用を前提として博物館・美術館のデータベースに求めるもの
 - 高精細画像
 - 所蔵資料を網羅的に掲載(全所蔵品の掲載が難しければ、その割合、または掲載基準を明記)
 - 寸法
- ・ 横断的デジタルアーカイブの必要性
 - ぜひ利用したい(上記の課題が解決したものであることが望ましい)

未発掘資料の調査

服飾資料には、博物館・美術館等専門施設の外で保存・管理されている貴重な資料が数多く存在する。その中には、調査がおこなわれずに今日に至っているものも多い。アーカイブ化、データベースの横断化の検討と併せて、これら資料の調査・保存・管理も重要である。実物資料の適切な管理なくして、デジタルアーカイブは成り立たないからである。未発掘の服飾資料を調査し、デジタルデータ化することによって、服飾資料の横断的デジタルアーカイブの充実が図れるものとする。

・能狂言装束調査A

調査日：平成28年10月11-13日、12月19-21日

調査資料：能狂言装束 161点

能狂言面 42点

手道具類 87点

・能狂言装束調査B

調査日：成29年2月28日-3月3日

調査資料：能狂言装束 165点

手道具類 44点

* 今後も調査を継続予定

4. 本年度事業の成果報告

シンポジウムの開催

- ・ファッション・デザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム

会場：文化学園大学 C館051教室

日時：平成29年1月21日(土) 13:00-15:00

コーディネーター

近藤尚子(文化学園大学和装文化研究所)

報告1

「服飾資料所蔵施設に対する訪問調査の結果報告」

金井光代(文化学園大学和装文化研究所)

国内の服飾資料所蔵施設(13施設)を訪問し、ヒアリング調査をおこなった結果を報告した。

- ・データベースを公開している施設は、13施設中4施設のみであり、多くの施設はデータベースを公開していないことが明らかになった。
→データベース公開に対して意欲はあるが、達成には解決すべき課題も多い。それらをひとつずつ解決する必要がある。
- ・服飾資料所蔵施設は、大きく分けて①公立博物館・美術館、②私立博物館・美術館、③大学博物館・美術館、④企業(呉服屋系)の4グループに分かれることが明らかになった。これら4グループは性格を異にしており、データベース公開に対する姿勢も異なっている。
→それぞれの特性を理解した上で、データベース公開、横断的デジタルアーカイブを検討する必要がある。
- ・横断的デジタルアーカイブを検討する上で、解決すべき課題も明らかになった。
→各館が公開データベースを構築するノウハウを持ち合せていない。
データベースに対する概念が各館・各学芸員によって異なっている。
服飾資料の名称や分類に統一基準がない。
システム関係や権利関係について相談できる窓口がない。

これらの問題は、施設ごとに解決を目指すよりも、服飾資料所蔵施設同士が連携して解決に当たることが望ましい。本事業は、中核拠点として、各施設の連携のサポート役を担っていきたい。

(発表時に使用したパワーポイント画像は添付資料IVを参照)

報告2

「横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告」

田中直人(文化学園大学和装文化研究所)

文化芸術資源のアーカイブ化に関して国の掲げる方針を整理し、次いで今年度の調査・研究により見えてきたアーカイブ化の進め方の大枠について説明した。

事業背景を、平成27年閣議決定の「文化芸術の振興に関する基本的な方針」を抜粋しつつ説明

- ・目的：文化芸術資源を継承し文化芸術創造の基盤となる知的インフラを構築する
- ・手段：(A) 文化芸術資源と関連資料の収集・保存、(B) 資料のデジタルアーカイブ化の促進、(C) 分野横断的な整備に関する検討
- ・先行するメディア芸術分野に、本事業が形成すべき中核拠点の姿が示されるとの指摘
＝関連施設や大学の連携・協力を推進して情報拠点を構築し、広く海外に発信
- ・国の指針と文化庁公募要領に示された事業内容の関係について確認
公募要領に記す3事業は国の姿勢をそのまま示すものである
要領に示さないが国が掲げる要素に「文化芸術資源と関連資料の収集・保存」がある
＝未発掘資料の調査と保存状況の改善支援はこれに基づくことを説明

アーカイブ化手法のあり方について、今年度の検討内容を報告

- ・事業の性格が中核拠点の形成を足掛かりとした「手法の検討」であることを確認
＝現状で何が出来て何が出来ないのかを明確にすることが目的
- ・服飾分野のアーカイブ手法の検討で最大の問題は「資料の定義に曖昧さが残る」こと
情報整理に関する共通認識が不足 横断化を進めようにも互換性に乏しく容易でない
＝アーカイブ化に様々な制約を生じ、各館の参加へのハードルを高める要因となる
- ・アーカイブ化手法の大枠としてまず考えるべきは、資料管理者の負担軽減への配慮
学芸業務の省力化や、研究上の利便性を高める仕組みを検討
ひな型の構築は各館が持つ手法を尊重 最初から作り込まず実働の中で修正する

次年度に向けた活動指針を呈示

- ・協力施設で作る試行版（「限定公開の横断的デジタルアーカイブ(案)」(表1参照)）構築を提案
来年度事業ではこれに向けた情報交換の機会を作る予定であることを報告
(発表時使用パワーポイント画像は添付資料IVを参照)

表1. 服飾資料の横断的デジタルアーカイブ(案)

最終目標 一般公開の横断的デジタルアーカイブ	
当面の目標 限定公開の横断的デジタルアーカイブ	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・限定的であれ、まずは繋がる ・参加博物館・美術館の学芸員の業務効率化・研究利用促進
利用者	・参加博物館・美術館の学芸員 + 構築に携わった者
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・参加館の学芸員業務における資料の貸借などの効率化に資する ・服飾研究の促進、活性化
デメリット	・完成に至るまでは、学芸員の業務負担増加
達成のために解決しなくては いけない課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加館の選定基準 ・情報管理ソフトの不統一 ・画像・データの利用ルール ・情報セキュリティーをいかに高めるか ・分類、項目・名称の不統一 ・検索に必要なキーワードの選定 ・費用負担

報告3

「服飾分野における未発掘資料調査の結果報告」

懇話会

報告会終了後、懇話会を開催した。顔を合わせる機会が少ない服飾資料所蔵施設の学芸員同士や、本事業に関わる人々との交流の場となり、大変有意義だった。上記に記した通り、システムのネットワーク作り以上に、人的ネットワーク作りが重要であるということが明らかになったことから、今後も中核拠点として本事業に関わる人々の交流の場、情報交換の場を定期的に提供していきたいと考えている。

(本シンポジウム開催告知のポスターは、添付資料Vを参照)

文化庁主催シンポジウムにおける報告

- ・文化庁新進芸術家海外研修制度発足50年記念国際シンポジウム

「日本の現代美術 ―未来へそしてレガシーへ―」

会場：慶應義塾大学・三田キャンパス南校舎ホール5F

日時：平成29年1月14日(土)

連携機関である武蔵野美術大学美術館・図書館、京都工芸繊維大学工芸資料館と共に、ポスター発表にて、今年度の成果報告を行った。

01. アーカイブ・資料体の概要

本学が担当しているファッション分野は、広範な時代・分野を対象とすることになる。そこでまずは、モデル構築のため「和装関連資料」に絞って調査、検討を進めている。具体的には、江戸時代に身分を問わず着用されていた小袖、男性特有の衣服である袴や陣羽織、芸能衣装である能装束や狂言装束なども含む日本伝統の衣服全般である。本事業が対象としている資料は、本シンポジウムのテーマである現代美術とは趣が異なるが、現代美術の源流には、国内・国外を問わず、近世を中心に花開いた日本文化が強く影響しており、同時代の資料のアーカイブ構築も重要であると考えられる。そのような理念に基づき、本事業では、博物館・美術館や他の服飾資料所蔵施設が所蔵している「和装関連資料」を繋いだ横断的デジタルアーカイブについて検討を進めている。そこに本シンポジウムでの発表の意義もあると考える。

02. 現在の取組

本事業では、服飾資料所蔵施設への訪問調査、未発掘資料の調査とデータ化、横断的デジタルアーカイブについての検討という3つの柱を中心に検討を進めてきた。訪問調査では、13の施設を訪問し、データベースの現状や問題点、横断的デジタルアーカイブに対する考え方などをヒアリング調査した。その結果、服飾資料所蔵施設は4つのグループ(①公立博物館・美術館、②私立博物館・美術館、③大学博物館・美術館、④企業(呉服屋系))に大別されることが明らかになった(詳細は表1参照)。未発掘資料の調査とデータ化では、東海地方の神社が所蔵している能装束・狂言装束を調査した。資料の保存・継承こそがアーカイブの本質であり、散逸・消失の危機に瀕している資料の調査は重要であるため、本事業の重要な柱の一つと考えている。以上2つの調査を受け、服飾資料に適した横断的デジタルアーカイブのあり方について検討する。

表1. 服飾資料所蔵施設の訪問調査結果

	① 公立博物館・美術館	② 私立博物館・美術館	③ 大学博物館・美術館	④ 企業(呉服屋系)
データベース公開に対する姿勢	国有・県有財産であるため、情報公開を重視	収益に直結しないため、必ずしも優先順位は高くない	教育・研究の必要から、公開に前向き	営業活動が優先されるため、必ずしも優先順位は高くない
特記事項	サイバー攻撃の標的となりやすいため、セキュリティを特に重視	助成金が獲得できれば整備可能	助成金の獲得もしくは、低予算で出来るシステムがあれば整備可能	営利企業のため、助成金の獲得は難しいが、低予算で出来るシステムがあれば可能性あり
共通課題	人員不足・予算不足が慢性化しており、予算や助成金の確保がないと整備は難しい 資料の分類や名称について統一的な基準がない システムや権利関係の専門家がスタッフがおらず、それについて相談する窓口もない			

03. 発信・活用に向けたイメージ

これからのデジタルアーカイブは、研究者や博物館・美術館だけでなく、クリエイターやSNS利用者など、従来は想定外であった利用者も含めて検討する必要がある。ただし現状は、未だ自館の公開データベースも未整備の施設が多く、目指す姿と現状は大きく乖離している。そこでまずは限定的であっても繋がることを目的とし、限定公開の横断的デジタルアーカイブの構築を当面の目標とする。限定公開とは、参加施設の学芸員と、構築に携わった者のみ利用可能ということである。そこで明らかになった問題を解決することで、一般公開の横断的デジタルアーカイブへの道筋ができると考えている(表2参照)。また、有識者会議でも、システムのネットワーク作りも大事だが、それ以上に人的ネットワーク作りが重要であるため、この構想はその観点からも有用であることが確認された。

表2. 服飾資料の横断的デジタルアーカイブ(案)

最終目標 一般公開の横断的デジタルアーカイブ	
当面の目標 限定公開の横断的デジタルアーカイブ	
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・限定的であれ、まずは繋がる ・参加博物館・美術館の学芸員の作業効率化・研究利用促進
利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・参加博物館・美術館の学芸員+構築に携わった者
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・参加館の学芸員業務における資料の貸借などの効率化に資する ・服飾研究の促進、活性化
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・完成に至るまでは、学芸員の業務負担が増加
達成のために解決しなくてはならない課題	参加館の選定基準／情報管理のソフトの不統一／画像・データ利用のルール 情報セキュリティをいかに高めるか／分類・項目・名称の不統一 検索に必要なキーワードの選定／費用の負担

(発表用ポスターは、添付資料VIを参照)

5. 連携機関との連絡

連絡会議

- ・アーカイブ中核拠点形成モデル事業 平成28年度第一回連絡会
会場： 武蔵野美術大学
日時： 平成28年11月30日(水)
- ・アーカイブ中核拠点形成モデル事業 平成28年度第二回連絡会
会場： 京都工芸繊維大学
日時： 平成29年3月25日(土)

連携機関との打ち合わせ

- ・武蔵野美術大学美術館・図書館との打ち合わせ
参加者：武蔵野美術大学美術館・図書館 沢田雄一氏、上野敬子氏、平出哲郎氏
文化学園大学和装文化研究所 近藤尚子、田中直人、金井光代、
ジュリア ナシメント
会場： 文化学園大学
日時： 平成28年9月23日(金)
- ・京都工芸繊維大学美術工芸資料館との打ち合わせ
参加者：京都工芸繊維大学美術工芸資料館 照山貴子氏
文化学園大学和装文化研究所 近藤尚子、田中直人、金井光代、ジュリア ナシメント
会場： 文化学園大学
日時： 平成28年10月6日(木)
- ・3学合同打ち合わせ
参加者：武蔵野美術大学美術館・図書館 沢田雄一氏、平出哲郎氏、篠江裕氏
京都工芸繊維大学美術工芸資料館 照山貴子氏、岡達也氏
文化学園大学和装文化研究所 金井光代、ジュリア ナシメント
会場： 文化学園大学
日時： 平成29年2月2日(木)

おわりに

アーカイブ手法およびデータベースの利活用のための調査を進める中で、国内外の多くの先進的な取り組みに触れることができました。ただそれは多くの場合で完成品が示されるのみであり、構築過程にあった失敗の蓄積や躍進に繋がった発想といった情報は殆ど表に出てきません。また仮にそれが説明されることがあっても、分野ごとに異なる事情に阻まれそのままトレースすることは困難であろうし、それが出来たととしても同じ成果が得られるとは限りません。つまりところアーカイブ手法や横断化の検討は、分野ごとに抱える諸条件を勘案しつつ、当事者が一歩ずつ進めてゆく以外に方法がないと考えられます。

分野として検討すべき事柄の代表的なものとして、①アーカイブ情報として何が必要とされるか、②いずれの共通理解を基盤にしてシステム構築がなされるべきか、があります。前者はアーカイブ手法の、後者は横断化工程の検討にあつて、それぞれ核心的に重要な問題であるといえます。また、ここに組み上げられた成果物は、その後利用者、資料提供者から「システムの扱い易さ」という指標をもって常に評価され続けることとなる、という事情があります。

何をもって「扱い易いシステム」と考えるか。この問題認識は、所内会議においても有識者会議においても主要な検討課題とされましたが、結論を示すことはできませんでした。アーカイブ手法についても横断化工程についてもともに急がず、迂遠な方法ではあるが多くの意見を聞き、妥当なあり方を丁寧にまとめてゆく必要があることを再度確認して、会議を終えることとなりました。

次年度事業においては、27、28年度と同様に、事業内容の第一に掲げられるネットワーク構築を進めることとしたいと思います。しかしそこで意識するところはこれまでの2年間と比べ幾らか異なります。それはいま記したように、多くの関係者の意見に耳を傾けること、とりわけ資料所蔵施設の管理担当者の方々と問題意識を共有しながら当たることが不可欠であるとの認識を持つということです。そしてそうした過程を踏まえることで初めて、その先にある資料データ提供の依頼が適切におこなえるものと考えています。

地道な情報収集とネットワーク作りを進め、資料管理者同士が意見を出し合い、より良い横断的アーカイブの形を模索できる環境を作ることを、今後も本事業の主要な課題として考えてゆきたいと思っています。

謝辞

本事業で進めました服飾資料所蔵施設への訪問調査、先進的取り組みの調査、また未発掘資料の調査においては、多くの方々にご協力を頂きました。末筆ながら謝意を表します。

添付資料

添付資料 I. 訪問調査 事前アンケート

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。

まずは、貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）について伺います。

0. はじめに

0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。

【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50）など】

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。

- ① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している
- ② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない
- ③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）

0-3. (0-2 で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。

- ① 1件 自館で運営するDBが1件ある
- ② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している
(提携先 (DB名称) : _____)

0-4. (0-2 で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。

【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】

自館DB :

提携DB :

0-5. (0-2 で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はお有りですか。お有りでしたらそのおおまかな時期についてお教えてください。

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。

まずは、貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）について伺います。

0. はじめに

0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。

【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50）など】

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。

- ① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している
- ② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない
- ③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）

0-3. (0-2 で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。

- ① 1件 自館で運営するDBが1件ある
- ② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している
(提携先 (DB名称) : _____)

0-4. (0-2 で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。

【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】

自館DB :

提携DB :

0-5. (0-2 で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はお有りですか。お有りでしたらそのおおよかな時期についてお教えてください。

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。

まずは、貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）について伺います。

0. はじめに

0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。

【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50）など】

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。

- ① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している
- ② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない
- ③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）

0-3. (0-2 で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。

- ① 1件 自館で運営するDBが1件ある
- ② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している
(提携先 (DB名称) : _____)

0-4. (0-2 で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。

【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】

自館DB :

提携DB :

0-5. (0-2 で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はお有りですか。お有りでしたらそのおおまかな時期についてお教えてください。

貴館名： _____ ご記入者氏名： _____ ご記入日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

アーカイブ中核拠点形成モデル事業 ファッション・デザイン分野

服飾分野資料のデータベースに関する調査

服飾分野資料に関する「館蔵品データベース」と、「横断的アーカイブ」の構築に対するお考えをお伺いしたく、調査用紙をお送り致しました。お忙しい中を恐縮ですが、お目通しいただけますよう宜しくお願いいたします。

※【 】内には参考として、先行調査においてよく聞かれた意見を記しました。選択肢ではありませんので、現状について自由にご記入ください。

まずは、貴館の服飾資料に関する館蔵品データベース（以下、DB）について伺います。

0. はじめに

0-1. 貴館の服飾分野資料の所蔵数をお教えてください。整理上の区分が設けられておりましたら、それも併せてお教え頂ければと思います。

【およそ 1500 点（日本 750、アジア 150、ヨーロッパ 600）、およそ 100 点（きもの 50、附属品 50）など】

0-2. 資料台帳を紙のほかコンピューターを使って管理されていますか。当てはまるものをお選びください。

- ① 台帳を順次データ化し、その一部、若しくは全部をDBとしてインターネット上に公開している
- ② 台帳を順次データ化しているが、館内業務に使用するためのDBであり、公開はしていない
- ③ 台帳のデータ化はしていない（紙台帳による管理）

0-3. (0-2 で①を選ばれた方) 公開DBをいくつお持ちですか。当てはまるものをお選びください。

- ① 1件 自館で運営するDBが1件ある
- ② 2件以上 自館で運営するDBの他に、他所のDBと提携しデータを提供している
(提携先 (DB名称) : _____)

0-4. (0-2 で①を選ばれた方) それぞれの公開はいつ頃から始められましたか。

【構想は 2002 年、準備開始は 2004 年、公開開始は 2006 年秋に始まる、など】

自館DB :

提携DB :

0-5. (0-2 で②③を選ばれた方) 館蔵品DBのインターネット上での公開を今後行なう予定はお有りですか。お有りでしたらそのおおまかな時期についてお教えてください。

添付資料Ⅱ. Europeana(ヨーロッパアナ)報告書・戦略書リスト

Europeana報告書・戦略書などのリスト

(ホームページやブログの記事は含まれていない)

- ① ヨーロッパアナ・ファッションにおける知的財産権に関するガイドライン
(Vanitas ファッションの批評誌による翻訳、No.004 - 112~149ページ)
Fashion and Intellectual Property: 'Best Practice' Guidelines
(Europeana Fashion IPR Guidelines)
<http://blog.europeanafashion.eu/download/Europeana%20Fashion%20IPR%20Guidelines.pdf>
- ② 2015~2020年ヨーロッパアナ戦略書
Europeana Strategy 2015-2020
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20Strategy%202020.pdf
- ③ 2015~2020年ヨーロッパアナ戦略への影響
Europeana Strategy 2015-2020, Impact
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20strategy%20impact.pdf
- ④ 2020年ヨーロッパアナ戦略におけるネットワークおよび持続可能性(ドラフト)
Europeana Strategy 2020, Network & Sustainability (draft)
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20Strategy%20Network%20Sustainability.pdf
- ⑤ 2016年ヨーロッパアナ度事業計画書(ビジネス・プラン)
Europeana Business Plan 2016: Creating Cultural Connections
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/europeana-bp-2016.pdf
- ⑥ ヨーロッパアナのブランディング推薦
Undivided: Europeana Brand Recommendation
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20-%20Brand%20Recommendations.pdf
- ⑦ ブランディング・ガイドライン
Europeana Brand Guidelines
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Resources_and_PR_tools/Brand%20Guidelines/europeana_brand_guidelines.pdf
- ⑧ ヨーロッパアナの価値: デジタル文化遺産アクセス改善の福利的影響
The Value of Europeana: The welfare effects of better access to digital cultural heritage
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20Strategy%202020-%20Value%20assessment%20SEO.pdf
- ⑨ ヨーロッパアナ・パブリッシング・フレームワーク(要約)
Europeana Publishing Framework: Quick Summary
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Publishing_framework_summary.pdf
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana_Publishing_Framework.pdf (全文)

- ⑩ ヨーロピアナ・ライセンスング・フレームワークの要素
The Europeana Licensing Framework
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Publications/Europeana%20Licensing%20Framework.pdf
- ⑪ アグリゲーション・インフラを向上させるための推奨
Recommendations to Improve Aggregation Infrastructure
http://pro.europeana.eu/files/Europeana_Professional/Projects/Project_list/Europeana_Version3/Deliverables/EV3%20D1_1%20Aggregation%20Infrastructure.pdf
- ⑫ 2016年11月28日 東京大学大学院情報学環DNP研究寄付講座 開設1周年記念
シンポジウム「産官学民の連携によるデジタル知識基盤の構築」
基調講演：ヨーロッパアーナの成果と今後の課題 (Japanese Digital Archive Initiative)
Harry Verwayen (Deputy Director of Europeana)
<http://www.slideshare.net/hverwayen/2016-nov-28-presentation-tokio>

Europeana : ホームページ情報やブログ記事

- ① ヨーロピアナの3つオーディエンス
Europeana's Three Audiences
- ② ヨーロピアナのアグリゲーター (プロバイダー)
Europeana Aggregators (Providers)
<http://statistics.europeana.eu/providers>
- ③ ヨーロピアナ事務局のスタッフ
Europeana Staff
<http://pro.europeana.eu/about-us/staff>
- ④ ヨーロピアナ・ファウンデーション「よくある質問」 (要約)
Europeana FAQs: Answers to the most commonly asked project-related questions
<http://pro.europeana.eu/get-involved/projects/project-faqs>
- ⑤ ヨーロピアナ・ファウンデーション
用語集 (Glossary of Terms)
<http://pro.europeana.eu/page/glossary>

Europeana以外の内容

- ① クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは
Creative Commons Licenses
<https://creativecommons.jp/licenses/>
- ② オンライン・コレクションとデジタル化
Collections Trust UK: Digitisation & online collections
<http://collectionstrust.org.uk/going-digital>

添付資料Ⅳ. 成果報告(ファッション・デザイン分野のアーカイブ中核拠点形成に関するシンポジウム)使用パワーポイント画像

文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」 平成29年1月21日

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

文化学園大学 和装文化研究所
金井光代

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業
(ファッション・デザイン分野)

↓

服飾資料の横断的 **デジタルアーカイブ** を作る
ためにはどうしたらいいかを考える

(ウキペディアより)

デジタルアーカイブ (digital archive) とは、博物館・美術館・公文書館や図書館の収蔵品を始め有形・無形の文化資源(文化資料・文化的財)等をデジタル化して記録保存を行うこと。デジタル化することによって、文化資源等の公開や、ネットワーク等を通じた利用も容易となる。

資料を精緻にデジタル化することにより、オリジナル資料へのアクセスの必要性を減らすことが出来るため、将来的にも資料の傷みを最小限にすることが可能になる。

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

服飾資料の **横断的デジタルアーカイブ** を作る
ためにはどうしたらいいかを考える

↓

・洋装
・現代
・和装
・過去

本事業が対象とする分野

↓

服飾資料所蔵施設が持っているデータベースを横つなぎに繋げて、横断検索を可能にしたもの

↓

・博物館 ・美術館 — メイン
・企業 ・神社、寺院 ・個人

こちらも貴重な資料を持っている

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

服飾資料所蔵施設への訪問調査 (訪問日時順に掲載)

共立女子大学(現 共立女子大学博物館) (東京都千代田区)
女子美術大学美術館 (神奈川県相模原市)
和洋女子大学文化資料館 (千葉県市川市)
杉野学園衣裳博物館 (東京都品川区)
徳川美術館 (愛知県名古屋)
J. フロントテイルンク史料館 (愛知県名古屋)
東京家政大学博物館(東京都板橋区)
高島屋史料館 (大阪府大阪市)
奈良県立美術館 (奈良県奈良市)
京都文化博物館 (京都府京都市)
千總ギャラリー (京都府京都市)
京都国立博物館 (京都府京都市)
国立歴史民俗博物館 (千葉県佐倉市)

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

アンケート調査票 (一部を抜粋)

- 所蔵している服飾資料について
 - ・所蔵数
 - ・分類
 - ・台帳作成手法
- 自館のデータベースについて
 - ・データベースの有無
 - ・公開、非公開の別
 - ・運用開始時期
 - ・運用体制
 - ・構築目的
 - ・想定利用者
 - ・公開資料の選定
 - ・画像の取り扱い
 - ・問題点
- 横断的アーカイブについて
 - ・必要性
 - ・有効な検索条件
 - ・データ提供側の要望

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査結果 ※データベースはDBと表記

成り立ちが異なる

保存・管理を目的として収集

元々資料を所蔵していて、後から博物館・美術館になった

資料整理が追いついていない

訪問施設		公開デジタルDB	非公開デジタルDB
1 公立 博物館・美術館	京都国立博物館	有	有
	奈良県立美術館	無	有
	京都文化博物館	有	有
	国立歴史民俗博物館	有	有
2 私立 博物館・美術館	徳川美術館	無(検討中)	有
3 大学 博物館・美術館	共立女子大学博物館	無	有
	女子美術大学美術館	無	有
	和洋女子大学文化資料館	無	無
	杉野学園服飾博物館	有	有
	東京家政大学博物館	無	有
4 企業 (呉服屋系)	J. フロントテイルンク史料館	無	有
	高島屋史料館	無	有
	千總ギャラリー	無	有

文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」 平成29年1月21日

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

文化学園大学 和装文化研究所
金井光代

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

文化庁 アーカイブ中核拠点形成モデル事業
(ファッション・デザイン分野)

↓

服飾資料の横断的 **デジタルアーカイブ** を作る
ためにはどうしたらいいかを考える

(ウィキペディアより)

デジタルアーカイブ (digital archive) とは、博物館・美術館・公文書館や図書館の収蔵品を始め有形・無形の文化資源 (文化資料・文化的財) 等をデジタル化して記録保存を行うこと。デジタル化することによって、文化資源等の公開や、ネットワーク等を通じた利用も容易となる。

資料を精緻にデジタル化することにより、オリジナル資料へのアクセスの必要性を減らすことが出来るため、将来的にも資料の傷みを最小限にすることが可能になる。

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

服飾資料の **横断的デジタルアーカイブ** を作る
ためにはどうしたらいいかを考える

↓

・洋装 ・和装
・現代 ・過去

本事業が対象とする分野

↓

服飾資料所蔵施設が持っているデータベースを横つなぎに繋げて、横断検索を可能にしたもの

↓

・博物館 ・美術館 — メイン
・企業 ・神社、寺院 ・個人

こちらも貴重な資料を持っている

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

服飾資料所蔵施設への訪問調査 (訪問日順に掲載)

共立女子大学(現 共立女子大学博物館) (東京都千代田区)
女子美術大学美術館 (神奈川県相模原市)
和洋女子大学文化資料館 (千葉県市川市)
衫野学園衣裳博物館 (東京都品川区)
徳川美術館 (愛知県名古屋)
J.フロントフェイリング史料館 (愛知県名古屋)
東京家政大学博物館(東京都板橋区)
高島屋史料館 (大阪府大阪市)
奈良県立美術館 (奈良県奈良市)
京都文化博物館 (京都府京都市)
千總ギャラリー (京都府京都市)
京都国立博物館 (京都府京都市)
国立歴史民俗博物館 (千葉県佐倉市)

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

アンケート調査票 (一部を抜粋)

- 所蔵している服飾資料について
 - 所蔵数
 - 分類
 - 台帳作成手法
- 自館のデータベースについて
 - データベースの有無
 - 公開、非公開の別
 - 運用開始時期
 - 運用体制
 - 構築目的
 - 想定利用者
 - 公開資料の選定
 - 画像の取り扱い
 - 問題点
- 横断的アーカイブについて
 - 必要性
 - 有効な検索条件
 - データ提供側の要望

服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査結果 ※データベースはDBと表記

		訪問施設	公開デジタルDB	非公開デジタルDB
成り立ちが異なる	1 公立 博物館・美術館	京都国立博物館	有	有
		奈良県立美術館	無	有
		京都文化博物館	有	有
		国立歴史民俗博物館	有	有
保存・管理を 目的として収集	2 私立 博物館・美術館	徳川美術館	無 (検討中)	有
		共立女子大学博物館	無	有
元々資料を所蔵 していて、後から 博物館・美術館 になった	3 大学 博物館・美術館	女子美術大学美術館	無	有
		和洋女子大学文化資料館	無	無
		衫野学園服飾博物館	有	有
		東京家政大学博物館	無	有
資料整理が 進いていない	4 企業 (呉服屋系)	J.フロントフェイリング史料館	無	有
		高島屋史料館	無	有
		千總ギャラリー	無	有

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告

- 1 事業化にいたる背景
- 2 アーカイブ化手法の大枠

文化学園大学 和装文化研究所
田中 直人

1 事業化にいたる背景

各種資料のアーカイブ化とは
どういった文脈から、何を目指すものか



「文化芸術の振興に関する基本的な方針」

国および文化庁の考える
アーカイブ化事業の位置付けが示される

文化芸術の振興に関する基本的な方針 －文化芸術資源で未来をつくる－ (第4次基本方針)

※平成27年5月22日閣議決定
(◆文化庁HP 2017年1月5日参照)



重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進
において
「文化芸術資源のアーカイブ化」に言及

◆重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進

伝統文化から現代の文化芸術活動に至る我が国の多彩な
文化芸術を積極的に海外発信するとともに、文化芸術
各分野における国際文化交流を推進することにより、文化
芸術水準の向上を図るとともに、我が国に対するイメージの
向上や諸外国との相互理解の促進に貢献する。

(◆文化庁HP 2017年1月5日参照)

●貴重な各種文化芸術資源を継承し、次代の文化芸術創造の基盤
となる知的インフラを構築するため、映画、舞台芸術、アニメ、マンガ、
ゲーム、デザイン、写真、建築、文化財等の文化資産及びこれらの関連
資料等の収集・保存及びデジタルアーカイブ化等を促進するとともに、国立
国会図書館等の関係機関と連携しつつ分野横断的整備を検討する。特に、
メディア芸術について、関連の文化施設や大学等の連携・協力を推進する
ことにより、情報拠点を構築し、我が国のメディア芸術を広く海外に発信する。

要約すれば・・・

目的

文化芸術資源を継承し、次代の文化芸術創造の基盤となる
知的インフラを構築する

手段

- A：文化芸術資源とその関連資料の収集と保存
- B：同資料のデジタルアーカイブ化の促進
- C：分野横断的な整備に関する検討

※とりわけ「メディア芸術」については関連施設や大学の
連携・協力を推進しつつ情報拠点を構築し、我が国の
メディア芸術を広く海外に発信する。

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

「メディア芸術デジタルアーカイブ事業」

対象：マンガ、アニメーション、ゲーム、メディアアートの4分野

内容：①全体像（作品情報、所蔵情報）の調査
②作品のデジタル化に資する事例検証

成果：「メディア芸術データベース（開発版）」の公開
※内容は随時更新・追加される予定

（◆文化庁HP 2017年1月5日参照）

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

◆公募要領にて指示された3つの活動

- ①所蔵施設とのネットワークの構築
- ②服飾分野史料のアーカイブ化手法の検討
- ③DBの管理・運用・利活用

◆文化庁の基本方針に従い、新たに始めた活動

- ④未発掘資料の調査と保存状況の改善支援

重点戦略AIに従い
新たに付加
⇒プログラム3にて
報告

（再掲）重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進
目的

文化芸術資源の継承 創造の基盤となる知的インフラの構築
手段

- A文化芸術資源と関連資料の収集・保存
- B同資料のデジタルアーカイブ化促進
- C分野横断的な整備に関する検討

（再掲）金井：服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

1. 所蔵している服飾資料について
 - ・所蔵数
 - ・分類
 - ・台帳作成手法
2. 自館のデータベースについて
 - ・データベースの有無
 - ・公開、非公開の別
 - ・運用開始時期
 - ・運用体制
 - ・構築目的
 - ・想定利用者
 - ・公開資料の選定
 - ・画像の取り扱い
 - ・問題点
3. 横断的アーカイブについて
 - ・必要性
 - ・有効な検索条件
 - ・データ提供側の要望

アンケート調査票（一部を抜粋）



横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

I 協力館への事前アンケートとヒアリング調査

データベース整備の進捗状況
データベースの運営手法
横断的アーカイブへの期待



II 得られた情報を所内会議にて分析・検討



III 所内会議での検討過程を有識者会議にて説明

共立女子大学 長崎巖先生
十文字学園女子大学 樋口一貴先生
国立歴史民俗博物館 澤田和人先生

◆公募要領にて指示された3つ（①②③）の活動

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
2アーカイブ化手法の大枠

2 アーカイブ化手法の大枠

“アーカイブ化推進のための拠点形成”のための事業
横断化そのものを進める段階にはまだない
適切な進め方の調査、検討に主眼

ゆえに

実現が容易なことと困難なことを分けることが重要

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
2アーカイブ化手法の大枠

★手法検討上の根源的な問題
資料の定義に曖昧さが残る

他館の公開DBをほとんど使わないとの意見

理由として
資料の分類、名称が施設ごとに異なる
情報の精度がまちまち
⇒ 欲しい情報が得られない

言葉使いや情報整理の手法における共通認識が不足

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

「メディア芸術デジタルアーカイブ事業」

対象：マンガ、アニメーション、ゲーム、メディアアートの4分野

内容：①全体像（作品情報、所蔵情報）の調査
②作品のデジタル化に資する事例検証

成果：「メディア芸術データベース（開発版）」の公開
※内容は随時更新・追加される予定

（◆文化庁HP 2017年1月5日参照）

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

◆公募要領にて指示された3つの活動

- ①所蔵施設とのネットワークの構築
- ②服飾分野史料のアーカイブ化手法の検討
- ③DBの管理・運用・利活用

◆文化庁の基本方針に従い、新たに始めた活動

- ④未発掘資料の調査と保存状況の改善支援

重点戦略Aに従い
新たに付加
⇒プログラム3にて
報告

（再掲）重点戦略4：国内外の文化的多様性や相互理解の促進

目的

文化芸術資源の継承 創造の基盤となる知的インフラの構築

手段

- A 文化芸術資源と関連資料の収集・保存
- B 同資料のデジタルアーカイブ化促進
- C 分野横断的な整備に関する検討

（再掲）金井：服飾資料所蔵施設に対する訪問調査結果報告

調査内容 ※事前アンケートにご回答いただき、回答をもとに訪問時により詳しくヒヤリング

服飾資料のデータベースに関する調査

1. 所蔵している服飾資料について
 - ・所蔵数
 - ・分類
 - ・台帳作成手法
2. 自館のデータベースについて
 - ・データベースの有無
 - ・公開、非公開の別
 - ・運用開始時期
 - ・運用体制
 - ・構築目的
 - ・想定利用者
 - ・公開資料の選定
 - ・画像の取り扱い
 - ・問題点
3. 横断的アーカイブについて
 - ・必要性
 - ・有効な検索条件
 - ・データ提供側の要望



横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
1 事業化にいたる背景

I 協力館への事前アンケートとヒアリング調査

データベース整備の進捗状況
データベースの運営手法
横断的アーカイブへの期待



II 得られた情報を所内会議にて分析・検討



III 所内会議での検討過程を有識者会議にて説明

共立女子大学 長崎巖先生
十文字学園女子大学 樋口一貴先生
国立歴史民俗博物館 澤田和人先生

◆公募要領にて指示された3つ（①②③）の活動

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
2 アーカイブ化手法の大枠

2 アーカイブ化手法の大枠

“アーカイブ化推進のための拠点形成”のための事業
横断化そのものを進める段階にはまだない
適切な進め方の調査、検討に主眼

ゆえに

実現が容易なことと困難なことを分けることが重要

横断的アーカイブ構築に向けた検討過程の報告
2 アーカイブ化手法の大枠

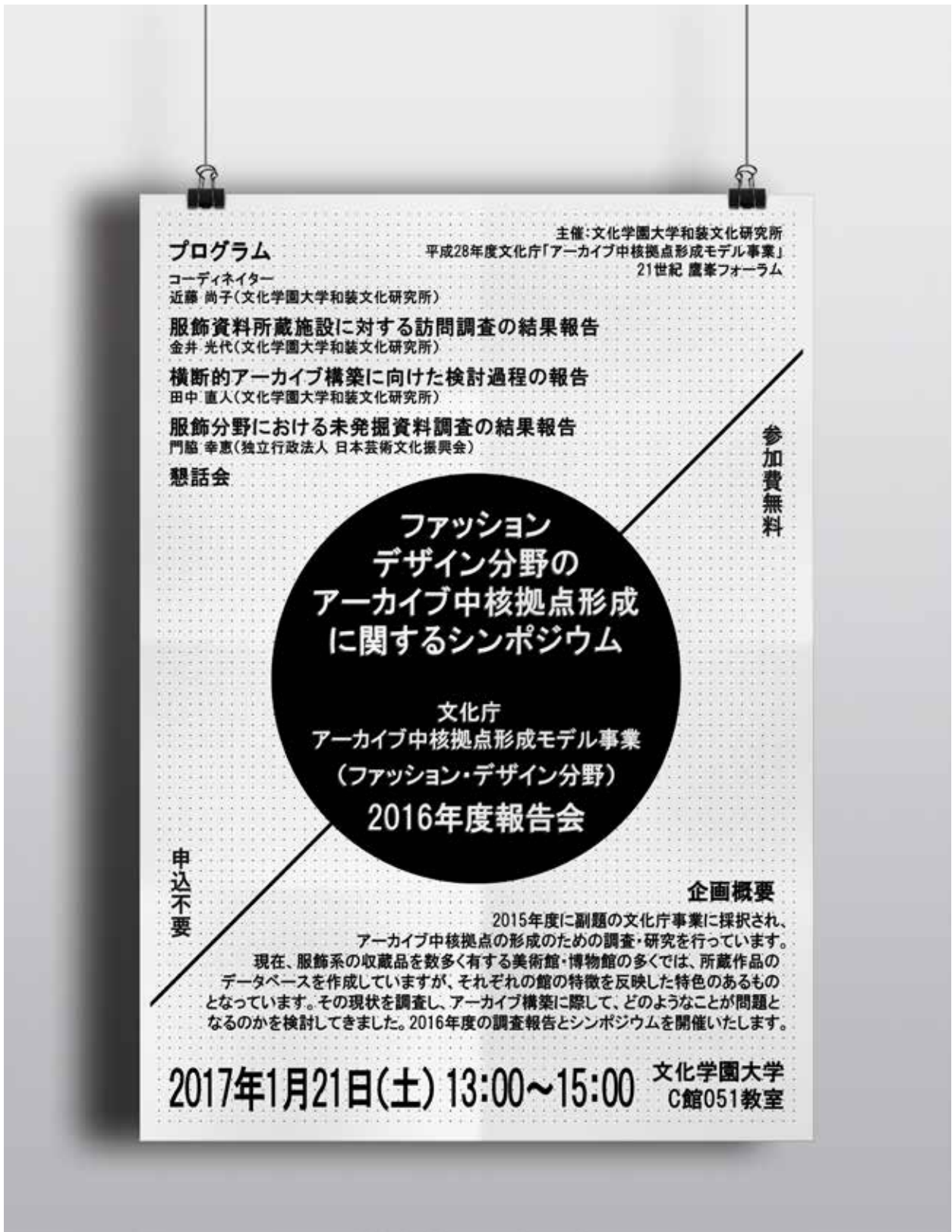
★手法検討上の根源的な問題
資料の定義に曖昧さが残る

他館の公開DBをほとんど使わないとの意見

理由として
資料の分類、名称が施設ごとに異なる
情報の精度がまちまち
⇒ 欲しい情報が得られない

言葉使いや情報整理の手法における共通認識が不足

添付資料V. シンポジウム告知用ポスター



文化庁 新進芸術家海外研修制度発足50周年記念 国際シンポジウム
日本の現代美術を支える——未来へ、そしてレガシーへ

Day 2 現代芸術アーカイブの構築に向けて——保存・発信・活性化

文化庁「アーカイブ中核拠点形成モデル事業」
ファッション・デザイン分野
文化学園大学

<http://bwu.bunka.ac.jp/>

01 アーカイブ・資料体の概要

本学が担当しているファッション分野は、広範な時代・分野の資料を対象とすることになる。そこでまずは、モデル構築のため「和装関連資料」に絞って調査、検討を進めている。具体的には、江戸時代に身分を問わず着用されていた小袖、男性特有の衣服である袴や陣羽織、芸能衣装である能装束や狂言装束なども含む日本伝統の衣服全般である。本事業が対象としている資料は、本シンポジウムのテーマである現代美術とは趣が異なるが、現代美術の源流には、国内・

海外を問わず、近世を中心に花開いた日本文化が強く影響しており、同時代の資料のアーカイブ構築も重要であると考え。そのような理念に基づき、本事業では、博物館・美術館や他の服飾資料所蔵施設が所蔵している「和装関連資料」を繋いだ横断的デジタルアーカイブについて検討を進めている。そこに本シンポジウムでの発表の意義もあると考える。

02 現在の取組

本事業では、服飾資料所蔵施設への訪問調査、未発掘資料の調査とデータ化、横断的デジタルアーカイブについての検討という3つの柱を中心に検討を進めてきた。訪問調査では、13の施設を訪問し、データベースの現状や問題点、横断的デジタルアーカイブに対する考えなどをヒヤリング調査した。その結果、服飾資料所蔵施設は4つのグループ（①公立博物館・美術館、②私立博物館・美術館、③大学博物館・美術館、④企業（呉服屋系））に大別されることが明らかになった（詳細は表1参照）。未発掘資料の調査とデータ化では、東海地方の神社が所蔵している能装束・狂言装束を調査した。資料の保存・継承こそがアーカイブの本質であり、散逸・消失の危機に瀕している資料の調査は重要であるため、本事業の重要な柱の一つと考えている。以上2つの調査を受け、服飾資料に適した横断的デジタルアーカイブのあり方について検討する。

表1. 服飾資料所蔵施設の訪問調査結果

	① 公立博物館・美術館	② 私立博物館・美術館	③ 大学博物館・美術館	④ 企業（呉服屋系）
データベース公開に対する姿勢	固有・共有財産であるため、情報公開を重視	収益に直結しないため、必ずしも優先順位は高くない	教育・研究の必要から、公開に前向き	営業活動が優先されるため、必ずしも優先順位は高くない
特記事項	サイバー攻撃の脅威となりがちのため、セキュリティを特に重視	助成金が獲得できれば整備可能	助成金の獲得もしは、低予算で出来るシステムがあれば整備可能	資料企業のため、助成金の獲得は難しいが、低予算で出来るシステムがあれば可能性あり
共通課題	人員不足・予算不足が慢性化しており、予算や助成金の確保がないと整備は難しい 資料の分類や名称について統一的な基準がない システムや権利関係の専門家がスタッフがおらず、それについて相談する窓口もない			

03 発信・活用に向けたイメージ

これからのデジタルアーカイブは、研究者や博物館・美術館への来館者だけでなく、クリエイターやSNS利用者など、従来は想定外であった利用者も含めて検討する必要がある。ただし現状は、未だ自館の公開データベースも未整備の施設が多く、目指す姿と現状は大きく乖離している。そこで、まずは限定的であっても繋がることを目的とし、限定公開の横断的デジタルアーカイブの構築を当面の目標とする。限定公開とは、参加施設の学芸員と、構築に携わった者のみ利用可能ということである。そこで明らかになった問題を解決することで、一般公開の横断的デジタルアーカイブへの道筋が出来ると考えている（表2参照）。また、有識者会議でも、システムのネットワーク作りも大事だが、それ以上に人的ネットワーク作りが重要であるため、この構想はその観点からも有用であることが確認された。

表2. 服飾資料の横断的デジタルアーカイブ（案）

最終目標 一般公開の横断的デジタルアーカイブ	
当面の目標 限定公開の横断的デジタルアーカイブ	
目的	・限定的であれ、まずは繋がる ・参加博物館・美術館の学芸員の作業効率化・研究利用促進
利用者	・参加博物館・美術館の学芸員+構築に携わった者
メリット	・参加館の学芸員業務における資料の活用などの効率化に資する ・服飾研究の促進、活性化
デメリット	・完成に至るまでは、学芸員の業務負担が増加
達成のために解決しなくてはならない課題	参加館の選定基準 / 情報管理のソフトの不統一 / 画像・データ利用のルール 情報セキュリティをいかに高めるか / 分類・項目・名称の不統一 検索に必要なキーワードの選定 / 費用の負担